

総合科目

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本学総合科目Ⅰ	日本学の方法と資料	2	鹿又 喜隆	1	火曜1限
日本学総合科目Ⅱ	日本学の古典／原典を読む	2	鹿又 喜隆	2	火曜1限
広域文化学総合科目Ⅰ	広域文化学研究法	2	大貫 隆史	1	水曜1限
広域文化学総合科目Ⅱ	広域文化学の諸問題	2	大貫 隆史	2	水曜1限
総合人間学総合科目Ⅰ	感情の総合人間学	2	小松 丈晃	1	金曜1限
総合人間学総合科目Ⅱ	研究発表と討議	2	青木 聡子	2	金曜1限

科目名：日本学総合科目 I

曜日・講時：火曜 1 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LM12101, 科目ナンバリング：LAL-OAR503J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の方法と資料

2・授業の目的と概要：日本学の方法を多面的・総合的にとらえ、日本学研究の視座をもつ。まず、日本学諸分野からの方法の提示がおこなわれる。そして、それをもとにして、日本学の研究資料を総覧する。日本学諸分野からの多面的・総合的な提示によって、日本学研究の対象・資料の概要をつかむ。研究資料についての提示にあたっては、附属図書館等に所蔵される原典もとりにあげる。

3. 学習の到達目標：(1) 日本学研究の視座を多面的・総合的に説明できる。
(2) 日本学研究の資料・原典についての概略を説明できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 01 回 ガイダンス・日本学の過去・現在・未来①（茂木謙之介）
- 第 02 回 日本学の過去・現在・未来②（茂木謙之介）
- 第 03 回 海外の日本学事情（クレイグ クリストファー ロビン ジェイミー）
- 第 04 回 日本思想史学の方法（片岡龍）
- 第 05 回 日本思想史学の原典（引野亨輔）
- 第 06 回 日本語学の方法、他言語との対照（甲田直美）
- 第 07 回 日本語学の原典（大木一夫）
- 第 08 回 日本語教育学の方法①（小河原義朗）
- 第 09 回 日本語教育学の方法②（島崎薫）
- 第 10 回 日本文学の方法（佐倉由泰）
- 第 11 回 日本文学の原典（仁平政人）
- 第 12 回 日本史学の方法（堀裕）
- 第 13 回 日本史学の資料（籠橋俊光）
- 第 14 回 考古学の方法と資料①（鹿又喜隆）
- 第 15 回 考古学の方法と資料②（松本圭太）

5. 成績評価方法：レポート 80%

参加態度 20%

6. 教科書および参考書：テキストは用いない。必要資料は印刷して配布する。
参考書・参考資料は講義内で随時提示する。

7. 授業時間外学習：各回の講義内容を整理し、自分自身の研究テーマとの関連性、関係性について検討する。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本学総合科目Ⅱ

曜日・講時：火曜 1 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LM22101, **科目ナンバリング：**LAL-0AR504J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の古典／原典を読む

2・授業の目的と概要：日本学に関する古典的な文献（著作・論文）・日本学の研究資料となる原典を丁寧に読む。日本学の古典の理解、原典の多面的な読解を通じて、日本学研究のテキストから多様な観点を引き出し、日本学研究の基盤とすると同時に、日本学の考え方・方法を身につける。

3. 学習の到達目標：(1) 日本学研究の古典／原典の性格を説明できる。
(2) 日本学研究の古典／原典を精確に読み、その内容について議論できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. この科目は対面授業もしくは遠隔授業としておこないます。詳細は第 1 回目のガイダンスで説明します。
2. この科目は、第 2 回目以降、全体を 3 クラス（下記 A～C）に分けて、それぞれのクラスごとに運営されます。その内容は第 1 回目のガイダンスで説明します。

- A 思想・文化
- B 言語・文学
- C 歴史

第 1 回：日本学の古典／原典総論（ガイダンス）

第 2 回：日本学テキスト精読の方法と意義

第 3 回：日本学テキストを読むための道具

第 4 回：発表の方法

第 5 回：日本学テキスト精読(1)

第 6 回：日本学テキスト精読(2)

第 7 回：日本学テキスト精読(3)

第 8 回：日本学テキスト精読(4)

第 9 回：日本学テキスト精読(5)

第 10 回：日本学テキスト精読(6)

第 11 回：日本学テキスト精読(7)

第 12 回：日本学テキスト精読(8)

第 13 回：日本学テキスト精読(9)

第 14 回：日本学テキスト精読(10)

第 15 回：まとめ

5. 成績評価方法：レポート 60%

参加態度 40%

6. 教科書および参考書：テキストはコピーして配布する。

参考書

『日本国語大辞典 第二版』小学館 2000-2002

諸橋轍次『大漢和辞典 修訂版』大修館書店 1989-1009

中田祝夫編『古語大辞典』小学館 1983

その他、参考書は授業内で随時提示する。

7. 授業時間外学習：(1) 当該時に扱うテキスト範囲について十分予習して授業にのぞむこと。

(2) 各自の担当範囲に関して、十分な調査を行い、発表にのぞむこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：広域文化学総合科目Ⅰ

曜日・講時：水曜 1 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LM13101, **科目ナンバリング：**LAL-0AR505J, **使用言語：**日本語及び英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：広域文化学研究法

2・授業の目的と概要：広域文化学では、自他の文化、歴史、言語、宗教などのいかなる側面に注目し、それをいかなる視点から分析考察していくのか。この授業では広域文化学研究のために必要な基礎知識と技法を分野横断的に学ぶとともに、それらを通して他者・異文化への共感力と適応力を涵養することを目的とする。

3. 学習の到達目標：広域文化学の基礎的な知識と視点を身に付け、学際的視点から文化と社会をめぐる諸問題を考察することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

広域文化学の方法について、オムニバス形式で講義をおこなう。毎回の講義題目(担当教員)は以下の通り。

イントロダクション

フランス語・フランス文学研究のこれから (黒岩 卓)

文化人類学研究法 (越智郁乃)

ドイツ語学研究法 (嶋崎 啓)

中国思想研究法 (齋藤 智寛)

宗教学研究法 (問芝 志保)

アクションリサーチ研究法 (谷山 洋三)

文学研究と文化研究 (ジェイムズ・ティンク)

中国古代中世文学研究法 (矢田 尚子)

中国史研究法 (渡邊 英幸)

英語学研究法 (島 越郎)

歴史史料研究法 (有光 秀行)

インド文献学研究法 (桜井 宗信)

ディスカッション

まとめ

講義の順などについては、変更される場合がありますので、Google Classroom やメールなどでの連絡に留意してください

5. 成績評価方法：毎回の授業後に提出するミニツツペーパー(40%)、2 回の 1000 字程度のミニレポート(60%)

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：授業内容に関連した調査研究をおこないミニレポートを作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：広域文化学総合科目Ⅱ

曜日・講時：水曜 1 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LM23101, **科目ナンバリング：**LAL-0AR506J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：広域文化学の諸問題

2・授業の目的と概要：本授業では広域文化学における諸問題について、受講者による発表と討論を通して学ぶ。自分の研究対象地域や研究方法とは異なった研究テーマをもった学生や教員と討論を行うことを通し、自らの研究の意義や広域文化学的な視点を身につけることを目的とする。

3. 学習の到達目標：広域文化学をめぐる諸問題について多角的に考察することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回～第 5 回（担当：谷山洋三先生）

域際文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

第 6 回～第 10 回（担当：渡邊英幸先生）

東洋文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

第 11 回～第 15 回（担当：有光秀行先生）

西洋文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

5. 成績評価方法：発表、討論への参加状況による。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書は授業中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習：十分な準備を行いつつ発表をすること。また、他の受講者の発表に際して得られた新たな知見についても、時間をかけて調べ考察することが求められる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：総合人間学総合科目Ⅰ

曜日・講時：金曜1限

セメスター：1 **単位数：**2.00単位

担当教員：小松 丈晃

コード：LM15101, **科目ナンバリング：**LAL-0AR507J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情の総合人間学

2・授業の目的と概要：総合人間学専攻では、人間と社会に関する抽象的・原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合することで、合理的で柔軟な思考力によって現実社会の課題を理解・解決することができる人材を育成することを目指している。この科目は、この目標に向けて、人間の「感情」という共通テーマについて、総合人間学専攻の哲学倫理学講座、芸術人間学講座、社会人間学講座、心理言語人間学講座のさまざまな学問的観点から、学際的かつ総合的に考察するオムニバス講義である。

3. 学習の到達目標：人間の感情をめぐる総合人間学専攻の多様な学問的アプローチを学び、人間の感情について多角的に考察できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンライン授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）となります。Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

・オムニバス方式（変更の可能性あり）

- 1 感情の総合人間学——予定と目標
- 2 感情の哲学倫理的考察（1）
- 3 感情の哲学倫理的考察（2）
- 4 道徳にとって感情とは何か
- 5 心理学における感情研究史
- 6 感情の脳科学
- 7 美術と感情（1）
- 8 美術と感情（2）
- 9 美術と感情（3）
- 10 感情の社会学（1）
- 11 感情の社会学（2）
- 12 集団間関係と感情の行動科学
- 13 社会イメージと感情の行動科学
- 14 人生において感情言語の果たす役割
- 15 感情の総合人間学——まとめと課題

5. 成績評価方法：(i) 毎回の授業で求めるミニッツペーパーの提出 60%

(ii) ミニッツペーパーの内容評価 40%

(iii) 上記(i)と(ii)を加算の上、総合的に評価する。詳細については初回のガイダンスで説明するため、初回のガイダンスには、必ず出席すること。

6. 教科書および参考書：授業中に指定する（プリント配布など）。

7. 授業時間外学習：授業の内容について復習し、ミニッツペーパーの提出に向けて学習する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

2025年度の授業とりまとめ役は小松丈晃です。

メールアドレスは、takeaki.komatsu.a7* tohoku.ac.jp です（*はアットマークに変換してください）。

科目名：総合人間学総合科目Ⅱ

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：青木 聡子

コード：LM25101, **科目ナンバリング：**LAL-OAR508J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究発表と討議

2・授業の目的と概要：総合人間学専攻では、社会と人間に関する抽象的かつ原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合して学ぶことが求められる。この演習科目では、総合人間学専攻の履修者が、各自の修士課程（前期課程）における研究課題などを他の講座（専攻分野）の教員・学生の前で発表し、さまざまな学問的観点からの質疑応答・討論をすることを通じて、社会と人間についての学際的かつ総合的な研究姿勢を培うことを目指す。

3. 学習の到達目標：(1) 総合人間学専攻のさまざまな学問分野に触れ、さまざまな観点からの質疑応答・討議を通じて、学際的な研究姿勢を養う。

(2) 学術的な報告や質疑応答、討議の仕方の基礎を身に付ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション：科目 A・B のグループに分け授業の進め方について説明をおこない、発表分担を決定する。
- 2 研究発表の方法：各科目教員 4 名の参加により、研究発表の方法について説明をおこなう。
- 3 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 4 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 5 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 6 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 7 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 8 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 9 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 10 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 11 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 12 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 13 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 14 研究発表と討議：各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。
- 15 総括：各科目教員 4 名の参加により、これまでの研究発表について総括する。

5. 成績評価方法：授業への参加（50%）、発表内容（50%）

6. 教科書および参考書：特になし

7. 授業時間外学習：各自の発表について事前に十分に準備をおこない、発表後は討議の内容を十分に検討する。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

- ・ この科目では Classroom を使用して授業資料と授業情報を発信します。こまめにチェックをしてください。
- ・ 2025 年度の授業取りまとめ教員は青木聡子（社会学）です。メールアドレスは次の通りです。

soko.aoki.e7@tohoku.ac.jp